

# 生活創造空間

# にし NISHI

～アンラシネを目指します～

第 11 号 2012 年 4 月 10 日発行



## 継続は力なり！

～3年間で振り返ってみました～

生活創造空間にし 副館長 熊井 さとみ

生活創造空間にしは、2009年6月に産声をあげてから、3年経とうとしています。今年度で4年目に入ります。二つの法人がひとつの拠点施設を運営することは、大変なことだと思いますが、準備期間から一緒に協働作業を行ったことは、よい経験になったと感じています。地域に根差した拠点施設を“創造”する、という同じベクトルで運営を考える協働作業を通して、お互いの施設機能や考え方が分かり、方向も見えました。

振り返ると内容の濃い3年間だったと思います。エヌ・クラブ施設では、ここまでのことはできなかったと思います。

そして運営がスタートしてから今までの経過を振り返ると、いろいろと苦労もありましたが、様々なことを展開することができたと思います。1階のスペースで行っているランチコンサートは洋楽から邦楽、ダンス系も加わり、バ

リエーションがさらに広がりました。「さりげなく・ていねいに・ゆっくりと」と謳ってスタートしましたが、なんと開館してから通算240回開催しており、結構なペースで行っています。また、より多くの方が楽しめるように夜コンサートや落語なども開催し、幅広い年齢層の方にお越し頂きました。さらに、地域への情報発信として、研修を開催しました。23年度のテーマは、“地域連携”で、計3回行い、グループワークスタイルで様々な分野で活躍されている方々との交流を持ち、地域課題を知るとともに顔のつながる関係ができたことはうれしいことです。ある民生委員さんから、子供たちとのかかわりの薄さについてお話がありました。次は地域の子供たちとのかかわりをどうもつか？福祉は何ができるか？・・・いろいろ考えることが連なっていきます。

3年間を通して様々なイベントや研修の機会にたくさんの方のご協力をいただきました。

心より感謝いたします。これからも“福祉施設”としてだけではなく、様々な情報発信ができる“場”として地道な活動を継続して地域に根差していきます。

さて、次は何ができるかな？とてもわくわくしております。

今後とも『生活創造空間にし』をどうぞよろしくお願ひします！

## 平成 23年度 第3回 生活創造空間にし研修報告

「あらためて 地域を学ぶ 2」～しなやかに創りあげる地域連携3～

### 西区民児協と西区地域自立支援協議会



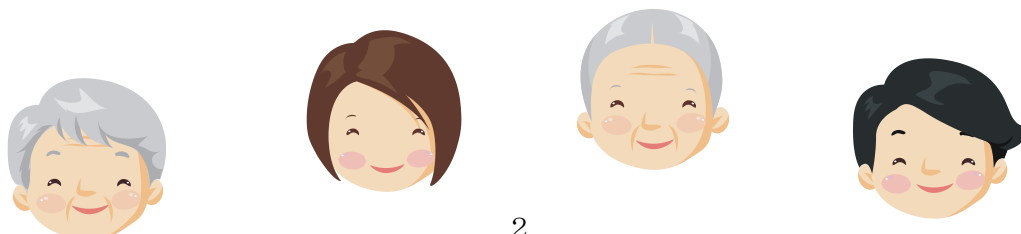
地域活動ホーム ガッツ・ビーと西 相談員 田中 寿

昨年より、シリーズで開催している生活創造空間にし研修、通算で第7回、今年度3回目の研修会が平成24年3月6日（火）に行われました。

今年度は、『しなやかに創りあげる地域連携』をテーマとし、1回目は桜美林大学教授 大溝茂先生、2回目は芳賀宏江 西区長にご登壇いただきました。第3回目の今回は、西区民児協と西区地域自立支援協議会から代表者が2名ずつ壇上に上がり、前半をそれぞれの職域・立場から感じている地域の課題や西区らしさをシンポジウム形式で語り、後半はその話を受けて、研修会参加者全員でグループワークをおこないました。

私も西区地域自立支援協議会を代表して、前半のシンポジウムでは、「障がい者の高齢化」の問題についてお話させていただきました。この課題は、西区地域自立支援協議会においても一つの大きな地域課題として捉えています。例えば、ご家族も当然、共に高齢化され、望む形での生活が維持できなくなってしまう方、そうスムーズには介護保険などの高齢系のサービスに移行できない方、現在利用しているサービスだけに生活が偏ってしまっており、自身の生活地域では全く関係性を築けていない方など、ライフステージの変わり目で、困難を生じている方が多くいらっしゃいます。支援者としてその困難を少しでも軽減できるよう、共に動きますが、地域とのつながり、顔の見える関係作りは一朝一夕には完成できないのが現状です。

今年度、3回地域連携をテーマとして研修会を開催させていただき、率直に感じている印象としては、民生・児童委員のみなさんはとてもパワフルで、「語りたい」「つながりたい」と本気で求めています。この研修会は有意義なのでもっと広く広報し、地域の多くの方々にも足を運んでもらえるようにしなさいとお叱りを受けたりもします。全市的に見ても、障がい者地域活動ホームにこれだけ民生・児童委員のみなさんが研修会に定期的に参加したり、共に活動したりしている区は存在しないと思います。これこそが、西区らしさであり、西区の強みの一つです。来年度も生活創造空間にし研修では、もう一度、地域とのつながりについて検討し、さらなる連携を模索していきたいと思います。



## 日揮パン販売の巻

### 『産みの苦しみ』



エヌ・クラブの製パン室が立ち上がってもうすぐ3年が経とうとしておりますが、何か新しい事を始めようとするこの“産みの苦しみ”というやつが毎度登場します。

つい我々は出来る事だけをやろうとして、チャレンジすることに二の足を踏んでしまいます。今回の日揮様でのパン販売に関しても、みんなの気持ちが1つの方向を向いていたとは言えませんでした。特に販売先の方から商品自体や販売方法、価格帯など要望が色々あり、こちらとしてもその条件に合う物を準備することは決して楽ではなく、そうまでして引き受けなければいけない仕事なのだろうか？という葛藤もありました。

しかし我々エヌ・クラブの製パン室は“施設のパン屋”を脱却して“プロのパン屋”を目指していかなければ！という思いもあります。“プロのパン屋”ならばお客様の様々な要望に答えていくものでしょう。

まあ、こんな理想論を口にするのもあまりないので、たまには文章だけでも書いてみました。まずは100個完売を目指していきます<(`^´)>

エヌ・クラブ 製菓・製パン室一同



### 『販売』について考える

ガッツ・ビーと西では他の地域活動ホームと比べると作業設備がほとんど整っておりません。ただ活動する部屋がいくつかあるだけで、作業については全くの白紙からスタートしました。逆に何もなかったところで何ができるか、これを常に考えてきました。屋上を使つての養蜂、古着等のリサイクルなど色々なアイディアが出される中で、近隣公園の清掃、缶回収、ペットボトルキャップ回収、ポスティング等の外作業を数多く取り入れて、外部（地域）との関わりを出来るだけ多く持てるよう考えてきました。『販売』もその一環です。『販売』をすることで色々な人とふれあうことができますし、「売上げを上げるにはどうしたらよいか？」等、室内で行う単純作業では考えることのできない、向上心を養うことができます。特に平成24年1月17日よりスタートした、みなとみらいクイーンズタワー内の日揮株式会社でのパン・クッキーの販売は、どのようにしたら売上げアップが図れるかの様々なアイディアを生み出していますし、お客さんを呼び込むための声も日に日に大きくなっています。

ご利用者皆さんの売上げアップのための検討が実を結んだ時、皆さんが「やりがい」を手にするんだろうなって思います。そのためには…皆さんにパン・クッキーをどんどん買ってもらわないと（笑）。

パン・クッキーは一般の方でもお買い求めいただけますので、是非ガッツ販売隊の勇志をご覧いただければと思います。あっ、ご覧いただくだけでなく、商品を購入下さい！！

（クイーンズタワーA棟6階弁当販売スペースまで是非！！）



日揮パン販売、開店前の風景

## <東北被災地とつながっていく・・・>

昨年 東北被災地訪問をさせていただいて思ったことが二つ。岩手の地で支援活動をされている岩手県社協 T さんの話しぶりがとても淡々としていて。その分 実際の大変さ・ご苦労が感じられて。この方を横浜の地にお呼びして研修会をやろうと思ったことが一つ。そしてその T さんが被災地と「つながること」を考えて下さると大変うれしいと。



このことに対する思いが二つ。一つは12月に実現し、改めて防災・減災の意識を再確認出来たこと。二つの被災地とどうつながるかは。障がい者施設で作られている物品を「買い取り」して細々でもいいからつながろうと。西区第3地区フェスタからはじまり、以降 時々イベントにあわせて今までに6回仕入れて販売してきました。主な販売場所は生活創造空間にし1階フロア及びそれぞれのイベント会場。この間、人気だったのは「ジャム」と「お味噌」でしょうか。「賢治のトマト」なる濃厚なトマトジュースも陰ながらのファンが出来ました。応援の思いも含め。でもそれだけでなく「おいしい」「いいもの」だったから売れているのだと確信していますが。率直な感想を聞かせて下さるとありがたいと思います。

今は第7回の仕入れで相談をしています。自分を含め珈琲好きが多いので珈琲シリーズはどうかなど思っている所です。いろんな作業所珈琲が並ぶことを想像するだけでもなかなか楽しくなります。また幾つかの作業所からはお便り・作業所通信も同封され現地の様子が少し伝わるようになっています。

ゆっくり ながく つながっていきあう「すべ」をあれこれ考えていきます。いいアイデア等あれば伝えて下さい。そしてこれからも商品を買って下さい！

<ジャムおじさん

渡辺>



腹黒日記～黒々なるまに～

前回で最終回と騙されてしまった方、まだまだ腹黒快進撃つづきますよ～♪

☆PTAが子どもに見せたくない番組☆

最近、うちの子たちの間で8時だよ 全員集合がにわかニブームになっている。3枚組のDVDを中古で購入したことがきっかけだ。私の記憶が確かならば、当時、ドリフターズやひょうきん族などのバラエティはPTAが子どもに見せたくない番組の代表格とされていた。確かに影響力は絶大でうちの子も、例えば、帰宅した際に「母ちゃんだいま、一本つけろや。」と言ったり、こちらが何か叱責した際に「♪いかりやに怒られた、いかりやにまた怒られた～」と唄ってごまかしたりしている。こちらの心情としては、カチンと来つつも、4歳児に言われるとおもわず失笑してしまう。

PTAが子どもに見せたくない番組ランキングは誰が考えたのだろうか。ロンドンブーツの彼もむしろ上位にランキングされることを喜んでた。PTAは親バカな判断をするものだと決めつけて、その必死さを嘲弄している様にも見える。そう、息巻く私も、ちょっとギャグをされただけで負けてしまう所では、もれなく親バカなのでしょう。(腹グロール)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・びーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)